

JAL2016 公開ワークショップ参加者によるアンケート調査結果報告

1. アンケート調査方法

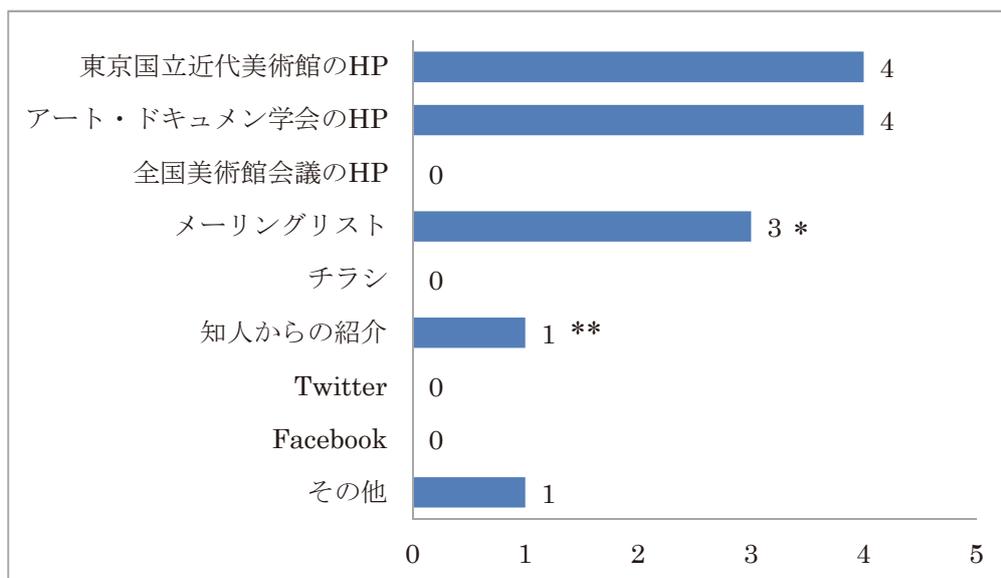
日時：2016年12月9日（金）10：10～17：30

場所：東京国立近代美術館講堂

アンケート総数：11件

2. アンケート詳細

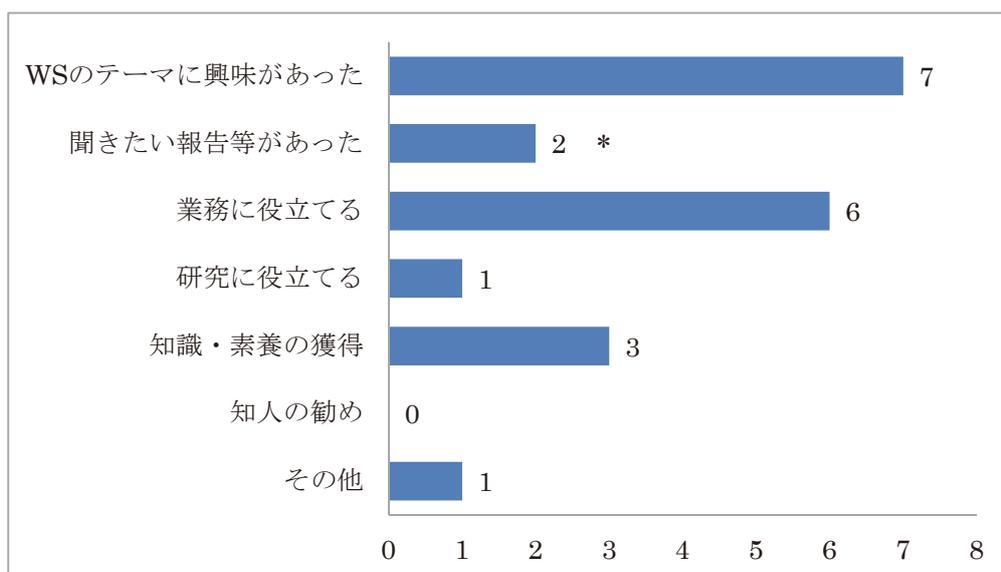
1) JAL2016 公開ワークショップについて情報の入手先



* メーリングリスト：JADS-ML、MUSE-Lib

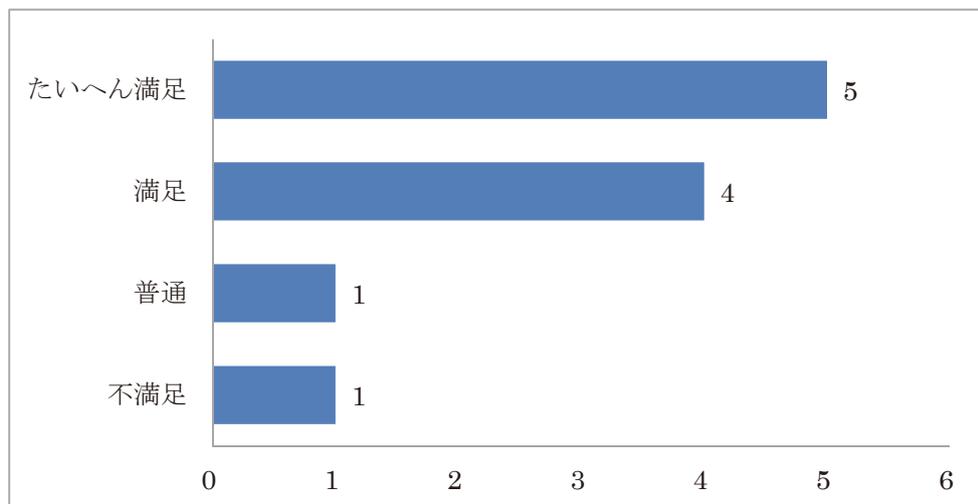
** 参加者から

2) 参加の目的



* サロマーさんの報告

3) 満足度



4) 興味・関心のあった報告

- JAL 出張セミナーの報告とグループによる提案が良かった。
- CJK 中での J の洞落について。そもそも近年の C(+K) の爆発的増加の中で母数が増えた結果、J の割合が相対的に下がった側面があると考え。
- 江上さんのコメントが良かった。
- ルーマニアでの日本学の状況（現在、国際日本研究講座の教員を務めており、海外の状況を知ることが出来て勉強になった。）

5) JAL へのご意見・ご感想

- 2014 年と 2016 年のワークショップに参加しました。日本の MLA について様々な意見を聴ける貴重な機会でした。自分の勤務先（大学図書館）の主題は日本美術ではないのですが、美術に限らず貴重な、やや耳の痛い指摘が次々と出て、身が引き締められました。（コメントも含めて）また JAL のような事業とその成果の共有の機会を楽しみにしております。（日本側の体制が整ってから？）
- 公開 WS に 3 年間参加したが、参加者が Japanese Art Librarians から次第に Japanese Studying People になりつつあるのではないかと？美術指向のない人まで無理に Art の枠に入れて人集めをしなければ開催が難しくなる様ならば 3 年間での終了は良い区切りだと思う。
- JAL2016 のメンバーはチームワークが良い印象を受けた。
- これからの連携が課題ですね。
- 江上敏哲氏のコメントにあるように、提言を受けているだけではなく、今後それを受けて日本側がどうするかを中心にワークショップを組んでほしい。安江氏の振り返りについて、また将来展望についての意見も共感しました。報告書出して終わり、ではないと思います。
- 特別講演が参考になりました。報告書を拝見したく存じます。
- すばらしい企画だと思った。

6) 今後の事業提案・意見

- 国内の MLA のデータベース担当者の会議・ワークショップ（JAL での提案のあったトピックをテーマに）（国内外のユーザーも交えて JAL のワークショップのようにオープンに）
- 公開 WS・報告書作成で終わるのではなく、招へい者（の所属機関）に JAL の成果がどの様に活かされたか、活かされるのに障害があれば、それは何故か等の追跡調査が必要と考える。
- 提言の実証。3 年間お疲れさまでした。若手の方が続くことを期待しています。
- 美術資料とは別の文化資源にも目を向けるのもおもしろい。日本で普段の研究以外の問いを立てて、解いてみる実践があったら、おもしろいと思う。